

平成19年10月31日

学 長 殿

リサーチセンター評価専門部会長 加藤史郎

リサーチセンター評価結果報告書

豊橋技術科学大学リサーチセンター設置基準等に係る取扱第10条に定める評価を行いましたので報告します。

評価実施リサーチセンター名 **未来環境エコデザインリサーチセンター**

評価

1. 設置目的に沿った運営がなされているか

財政評価：21-COE を含め 19 年度までの過去 3 年間の外部資金、および、今後 2 年間の外部資金は、設置基準を十分に超えている。

21-COE 推進会議の組織が構成され、順調に運営され、かつ、事業結果報告書が提出された。G-COE の採択はなかったが、21-COE 事業推進のグループが若手教員を中心に若手育成、他との連携も含め、21-COE プログラム「未来社会の生態恒常性工学」の拠点が形成されている。

2. 設置後の研究成果はどうか

事業結果報告書による評価：21-COE の活動を通して、分野融合的視野から、恒常的な人間活動を保証実現するための、関連する生命・環境・社会基盤関連の基礎的・要素技術の先進的開発を進め、かつ、関連分野におけるシンポジウム開催（国内、国外）・国際連携研究、多くの論文公表など成果を挙げている。

若手教員と博士等の若手育成、国際的連携の推進されている。

3. 今後の研究計画及び期待される効果はどうか

地球温暖化など地球規模の環境問題の対策は急務であり、本 RC が掲げる方向性は社会的にも大いに期待されている。現代 GP、環境省・文部省科学研究費、NEDO 等が、現在も継続的に推進されている。アジア・米国・欧州との連携の強化により、生命・環境・社会基盤関連において、人材育成（社会人、博士）、農工連携、医工連携、文理連携へ展開も含め、国際研究教育拠点の形成が期待できる。

同上および、21-COE の発展として、この RC をコアとして G-COE への採択を期待したい。

1. 総合評価 【4.2】(5段階評価の平均値)

関連系と共同で関連分野を広げ、本学全体の教育研究の発展に結びつける教育研究プロジェクト（あるいは教育課程）の展開が必要である。

センター長交代後の運営体制についての方向性を示すことが必要である。